函館市議会議員 無所属２期目

荒木あけみ

ニュースレター

函館市議会議員 荒木あけみニュースレター　第 21-22 合併号 / 2022 年 1 月 / 発行責任者　佐々木真実

２０２２年、明けました。ご無沙汰しておりましたが、皆さまお変わりございませんか。
２年前から始まった新型コロナウイルスの世界的な流行は、あらゆる面に影響を及ぼしました。横浜港に寄港したクルーズ船内で新型コロナウイルス大規模検疫が始まったのが２０２０年２月３日。新型インフルエンザのような季節性インフルレベルか、SARS・MARS のような感染症なのか正体が分からず不気味に感じていたところ、学校の休校、会合の相次ぐ中止、施設の面会禁止。２月末には、全国で一早く北海道で緊急事態宣言が発出されました。そこからは、感染防止のためのマスク、手洗い、三密回避といった新しい生活様式の実践や、PCR 検査を始めとする検査体制が準備され、入院や宿泊療養に変異株、ワクチンと新型コロナに関する情報が出ない日はない程になりました。この２年間、普段の議員活動の中で新型コロナについての対応や情報提供が大きな割合を占めました。市民の皆様にも多大な影響があったことと思います。一日も早い収束を心から願い、引き続き議員の役割を果たしてまいります。

十字街右折禁止物語

始まりは、十字街にある十字屋食料品店の店主、菅原雅仁さんの次の投稿でした。

2020年1月12日
江口眼科を前に、左手に西警十字街交番、右にセブンイレブン、という場所がある。標識は”右折禁止”なので、左折か直進のみ。しかし、右折すると十字街交差点、電停もあり、気づかずに右折するドライバーがたくさん。今朝から昼まででですでに 7 台。年間で恐らく 5,000 台くらい？（注※店主主観） この”十字街交番前･右折禁止取り締まり問題”には抜本的な改善策が必要では？交番から必死に走って違反者を追いかける警官、不服そうに切符を切られているドライバーの姿を毎日のように見ていると、双方、非生産的な行動に無駄に労力が消費されているようでもどかしい。（Facebook での投稿）

この投稿を見て菅原さんへ連絡。どう進めるとよいか警察や町会の方々へ相談しつつ荒木も関わることになりました。

1月２９日　菅原さんと荒木で西警察署交通課へ相談に。標識を見落としやすい、観光客の方が相当数取り締まられている、右折禁止の理由が現状をふまえたものなのかといった現状認識・質問をしたのち、標識の認知度向上、取締前の事前注意強化、右折禁止解除の実現可能性をお聞きし、今後の働きかけ方、最善策を提示いただいた。
2月５日　菅原さんと荒木で大手町の木村鶴一町会長、豊川町の梶原健司町会長へ相談に。アンケートか、地域交安全活動推進委員会に諮るか、署名か検討。
2月２１日　嘆願書と十字街交番の管轄町会からの署名を提出することに決定。西警管轄４０町会中、１１町会が十字街交番管轄。

3月１日　十字街交番管轄の１１町会に協力を得るため、木村さん、菅原さん、荒木で各町会を回る。西部地区協議会会長でもある木村さんに声がけいただきその後の署名お願いがスムーズに。
3月１９日　木村さん、菅原さんと共に、函館西警察署交通課に嘆願書を提出。賛同を得た町会は 13 町会で十字街交番管轄以上。交通課の池田警部補によると、
①当該交差点における交通量調査を既に開始、②十字街交番には違反予防の事前注意に注力するよう指示済。しかし、①右折後の先詰まりの可能性について懸念の声あり、②新型コロナの影響で該当地区交通量は通常と異なるため判断材料にならず、年間を通した結果で総合的に判断したい、との回答。

そして、最初の動きから約１年経ち・・・↓↓↓（菅原さんの投稿）↓↓↓

2021年1月19日
というわけで、荒木さんといろいろ働きかけた十字街右折禁止問題は、「見やすい標識看板の新規設置」という形で、一応の改善策が取られ決着しました。本格的な交通量調査に入る前にコロナ騒動となり、モヤモヤしておりましたが、荒木さんはじめ、関係各者のご尽力により、一応の成果を出せました。（写真右のように標識がつきました）

改善策は取られたのですが、新型コロナ終息後に、再度右折禁止解除の可能性がないか探りたいと思っています。

「正しくおそれる」～新型コロナウイルス関連の情報発信

新型コロナウイルス感染拡大の中、荒木が最もショックだったのは**「正しい情報が伝わっていないこと」**でした。得体の知れないウイルスで、市民の皆さんの不安が募る一方、行政にも初めてのこと尽くしで「正しい情報が伝わっていない」、「噂が広まり風評被害が出ている」と感じました。そこで、担当課への確認や調査に出て情報収集し、日々SNS(Facebook)で**情報提供を続けました。**中でも反響が大きかった３つの投稿をかいつまんでご報告いたします。

【うわさ―新型コロナウイルス感染症】（2020/5/3）

「コロナ感染したら、一緒に飼っているペットが安楽死させられると聞いたのですがデマでしょうか？」知人から聞いた話です。

「飼い主のコロナウイルス感染でペットが安楽死となることはありません。そのような法律はもちろん通知などもありません。」（保健所確認）

荒木は、最近新型コロナウイルス感染症に関連する内容を投稿し続けてきました。正しい情報が伝わっていないと思ったからです。２月下旬頃から個人的に質問や相談を受けることが増え、個別にご返答していたのですが、その数が増えてきたのと、市民の方々が知りたいことが共通化してきたこと、それとデマや噂話も聞かれたことへの懸念から、facebook ページに挙げるようになりました。

「○時から断水だって」。
２年前の胆振東部地震の時、お店の行列に並んでいた荒木の耳に入った情報は瞬く間に並んでいる列の前後に広がりました。　↗

噂だけに終わらず、噂が一周回って現実となる経験は、最近のトイレットペーパー品切れ報道で感じたところです。～（略）～

強い不安を感じる状況だからこそ広まりますし、良かれと思って友人知人に話すことで更に広がることになります。一歩引いて、情報ソースや引用データは何か、解釈は正しいか、裏を取れるかといったことを考える、又は分からない時は確認するようになればと思います。荒木も分からない時に聞いていただく選択肢の一つになれればと思います。

今、荒木は facebook を通じて情報共有しており、シェア等で周りの方に広めていただいています。しかし、自身の親を見て感じるのですが、インターネット見ない、携帯は通話のみ、テレビの情報を咀嚼する間もなく信じる、という方へどう伝えるのか、市の HP（トップページ）に様々な情報が載っていることを知らない方にタイムラグはあるにせよ伝えるにはどうすればよいかと考えています。市政はこだてに折込、広報車、町会回覧板、防災無線。新型コロナウイルスを正しくおそれるためにも、正しい情報をどう伝えるのかは我々の課題であると感じています。

【PCR 検査の見学】（2020/4/10）

難しい、と言われる PCR 検査を実際に見て「何が難しいのか」を理解し、「正しくおそれる」ための情報を得るために

函館保健所・総合保健センター内の函館市衛生試験所に行き、検査室の様子、検体の取り方、検体の厳重な管理・運搬方法、検査方法等をレポートし、以下の感想を書きました。

PCR 検査の「何が難しいのか」について、見学して感じたのは、PCR 検査にかかる時間や手間により簡便に検査することの難しさ、RNA など遺伝物質の取り扱いの難しさ、患者さんがどのくらいこの疾患なのかという評価の難しさ、検体取得の難しさ、加えて、検査結果の判断の難しさがあると感じました。

インフルエンザの検査のように病院で少し待てばその場で分かるようなものではなく、しかもインフルエンザの検査より精度が低い検査です。前者は、簡易検査キットの開発も進んでいるので時間短縮は現実的ですが、後者の精度については難しさがつきまといます。検出レベルまで増幅できなくて陰性になる「偽陰性」、陰性と出たからといって必ずしも陰性ではないことへの理解はそれだけ聞いても分かりにくいと感じます。

PCR 検査は、検体としてきたものを手順通りに検査して結果を出す、という科学的方法に基づいて行われていることなので、それ自体で成立しておりそこに疑問をはさむようなことではありません。しかし、PCR 検査をする・しない、濃厚接触とは、PCR の精度、新型コロナウイルス感染症の診断というところでは行政の対応について市民の声は様々です。そこについて、次回以降投稿したいと思います。

【PCR 検査の場が増える―函館地域外来・検査センター】（2020/5/23）

函館保健所以外で PCR 検査ができるようになります。

函館市地域外来・検査センター（PCR センター）は、
①PCR 検査の場の拡充により、既存の保健所の負担を軽減。
②開業医における感染リスクを軽減。　③二次病院への紹介において、紹介先病院での負担軽減。このような、現状逼迫している・しそうな部分の軽減を目的として設立されます。

公費負担で、患者さんの負担金はありません。検査をするのは、有志の医師の方々です。検査は、函館独自のウォークスルー型、テント内に検査室ブースを設置し、検査側には医師が入室、そこから患者さんに鼻腔スクラブ検査をします。

客観的にみて「凄い」のは、準備段階から医師が率先して動いているところです。“設立まですべてお膳立てされて医師は検査から参加”ではないのです。この間、

準備場面を３回見学しましたが、検査受診の流れ、検査室ブースの位置・向き、消毒の仕方、検査室の換気、検査に来る患者さんへの配慮、、こんな細かいことまでここで決めているのか、と驚きです。また、現場を離れたところでは、相次ぐ調整、説明、また調整。中央への働きかけ、組織への説明、周辺への配慮、まるで企業の新規事業立ち上げの行程を見ているようです。

関わる皆さんの現場での動き、見えないところで大変な調整をされている様子を知って、荒木が伝えるべきことはこういうことだと思い、投稿しました。

「正しい情報をお伝えしたい」という気持ちで Facebook に挙げた新型コロナ関連の投稿一覧です。

1	【緊急事態宣言の週末】	23	【新型コロナによる休校期間中のオンライン学習】	46	【受診・相談センターの設置】
2	【学校休校中のこどもの居場所】	24	【PCR検査の場が増える――函館地域外来・検査センター】	47	【市電の感染予防対策】
3	【学校休校中のこどもの居場所2】	25	【市の緊急雇用対策、応募条件が拡大。求職者、大学生等も。】	48	【宿泊療養ー新型コロナウイルス②】
4	【PCR検査の見学】	26	【通しリハーー函館地域外来・検査センター（PCRセンター）】	49	【市からのメッセージーー新型コロナウイルス感染防止対策】
5	【PCR検査見学時のQ&A】	27	【市立函館病院の感染防護具と感染病棟ーー新型コロナ】	50	【新型コロナウイルスー宿泊療養に入所する場合】
6	【新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中小・小規模企業向け地域施策説明会・相談会】	28	【「第二次補正」新型コロナウイルスの緊急対策】	51	【新型コロナウイルスー宿泊療養入所の情報更新】
		29	【最終リハーー函館地域外来・検査センター（PCRセンター）】	52	【飛沫の動きのシミュレーション】
7	【函館市の水際対策～新型コロナ】	30	【子育て世帯への給付金が給付されます】	53	【新型コロナウイルス感染症患者の発生状況】
8	【宿泊療養ー新型コロナウイルス】	31	【ひとり親家庭アンケートーーご協力のお願い】	54	【新型コロナウイルスー函館市の医療提供体制等の状況】
9	【重症者向けの病床確保ーコロナウイルス】	32	【函館市内公共施設の再開】	55	【新型コロナ感染時の生命保険の給付】
10	【発熱外来とPCR検査拡充の可能性】	33	【本日スタートーー函館地域外来・検査センター（PCRセンター）】	56	【新型コロナの疑いがあれば・・まず電話！】
11	【続・水際対策＆市役所窓口にもシートが】	34	【「不要」にチェックした場合ーー１０万円の給付金】	57	【函館市内の飲食店様向けアンケート】
12	【感染者以外の隔離】	35	【かかりつけ医受診を控えている方へーー新型コロナウイルス感染の心配から】	58	【企業の思い切った事業再構築を支援】
13	【函館市新型コロナウイルス感染症緊急対策】			59	【再びプレミアム商品券、そして事業継続の臨時支援金２０万円】
14	【新型コロナウイルスに係る休業等支援窓口の設置】	36	【健診の予定がある方へーー新型コロナウイルス感染の心配から】	60	【函館公園ー屋外イベント店舗出店実証実験】
15	【市立函館病院のスタッフ体制ー新型コロナ感染症】	37	【プレミアム付商品券、「新しい生活様式」普及協力支援金】	61	【ワクチン集団接種予約が開始されました】
16	【特別定額給付金（→国から出る10万円）の専用ダイヤル設置、事業者等特別支援金の電話相談】	38	【プレミアム商品券】	62	【新型コロナワクチン接種にキャンセルが出た時。】
		39	【プレミアム商品券ーー続報】	63	【緊急事態宣言をうけて市長記者会見】
17	【緊急雇用対策ーー市職員（会計年度任用職員）の募集】	40	【抗体検査の現状ーー新型コロナウイルス】	64	【８月８～１０日は食料支援でした】
18	【保育園の感染防止対策についての実態調査】	41	【新規導入するPCR検査機器】	65	【緊急事態宣言で、変わること・求められること】
19	【議会の委員会はオンラインでも開催可能に】	42	【食料支援活動～フードバンク】	66	【コロナの感染状況・医療体制など（市長記者会見より）】
20	【うわさーー新型コロナウイルス感染症】	43	【プレミアム付商品券による経済効果は】	67	【飲食店向け！緊急事態宣言による支援金】
21	【函館市事業者等特別支援金の対象期間「変更」と今感じること】	44	【自費診療でのPCR検査】	68	【昨年、新型コロナ対策にいくら、何に使ったのか（決算委員会より）】
22	【市立小中学校の学級あたり児童数とソーシャルディスタンス】	45	【第５次補正予算、約20億円】		

生理用品無料配布プロジェクト

２０２１年３月から始まった「生理用品無料配布プロジェクト」をサポートしています。これは、“生理用品を必要とする人みんなが当たり前に無料で使える社会”になるため、生理用品の寄付を集めて誰でも無料で持ち帰れる機会を拡げる活動です。湯川で雑貨店を開く佐々木絵美さんが３月に「生理の貧困」のニュースを見て、すぐに支援活動（自分のお店に無料提供の生理用品を設置）に入りました。

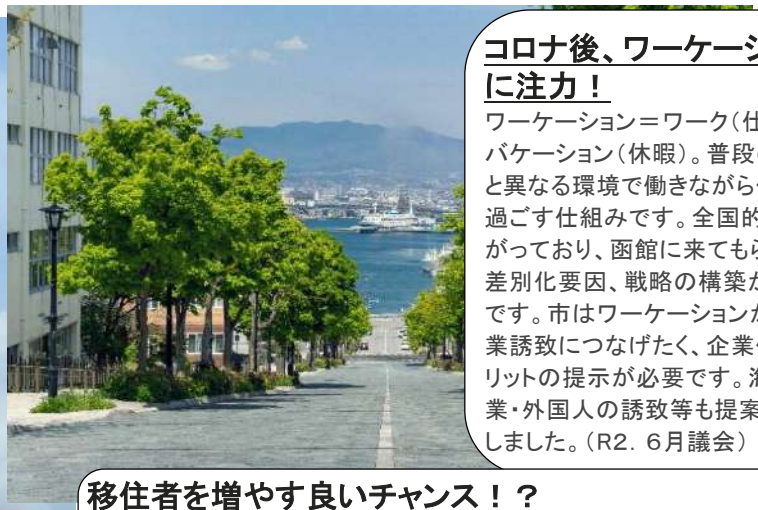
荒木は、3 月 19 日に佐々木さんからメッセージをいただき、翌日湯川のお店を訪問して「公共施設や学校などに設置したい」という意向を聞き動きました。春休み直前でしたが、26 日には市内の小学校複数校への設置が決まり、新学期になって、市内中学校、母子生活支援施設、自立援助ホーム、シェルター等につなげて支援が広がりました。佐々木さんは生理用品を配るだけでなく、若者を中心とした相談が全国各地から入っています（SNS のためスマホを通じてどこからでも相談が入る）。生理にまつわる話はタブーだったかな？と思うほどこれまではあまり表に出てきませんでしたが、彼女の活動によって困難を抱える子どもや若者の現状が顕在化しており、次の課題解決のためにクラウドファンディングや法人化、居場所づくりを進めています。荒木は、最初に話を聞いて以来、なんとか活動をサポートしたいと動いてきましたが、それは、全国から切実な生の声が彼女に届いており、函館だけに留まる課題じゃないから、そしてポストコロナの社会を考える上で大事な活動だと感じたからであり、佐々木絵美さんは、いつも多くの方に応援いただいている私が、応援したいと思った人でもあります。

LGBTQ+のイベントで動画出演

２０２１年１０月１６、１７日、蔦屋書店で「虹をはいて歩こう」というイベントで市議として動画出演しました。これは、ＬＧＢＴＱ＋と呼ばれる性的少数者を知ってもらう取組みです。事前に、全市議宛に届いたアンケートに回答したところ、インタビューをしたいということで道教大函館校の大学生（実行委員）が無所属控室にいらして話をしました。函館市では、現在パートナーシップ制度導入の検討が進んでおりますが、制度ができるだけではなく、当事者の方々の生きづらさを含めた生の声を正式な場で聴き、パートナーシップ制度含めて正しい形で市民の皆さんに伝えていくことが大切だと感じており、そのような話をしました。

こんな函館市だったら、いいね！

という気持ちで、2020～21年の市議会定例会で、こういう一般質問しました！！



ドクターヘリはありがたい。費用負担も平等に！

ドクターヘリ（ドクヘリ）は道南 18 市町で経費負担しています。ドクヘリが降りられる病院は限られており、ドクヘリと救急車が合流して患者を移す必要があります。その合流場所には救急車と消防車の 2 台が出動し、費用は市消防本部の負担です（患者が他市町民としても）。ドクヘリ事務局職員の人件費も函館市と病院局で負担しています。大きな市の役割もありますが、他市町は自ら救急車を走らせずに済むメリットも大きいので、費用負担の公平性を検討してほしいこと等質問しました。（R2．３月議会）

コロナ後、ワーケーションに注力！

ワーケーション＝ワーク（仕事）＋バケーション（休暇）。普段の会社と異なる環境で働きながら休暇も過ごす仕組みです。全国的に広がっており、函館に来てもらうには差別化要因、戦略の構築が重要です。市はワーケーションから企業誘致につなげたく、企業側のメリットの提示が必要です。海外企業・外国人の誘致等も提案・質問しました。（R2．６月議会）

移住者を増やす良いチャンス！？

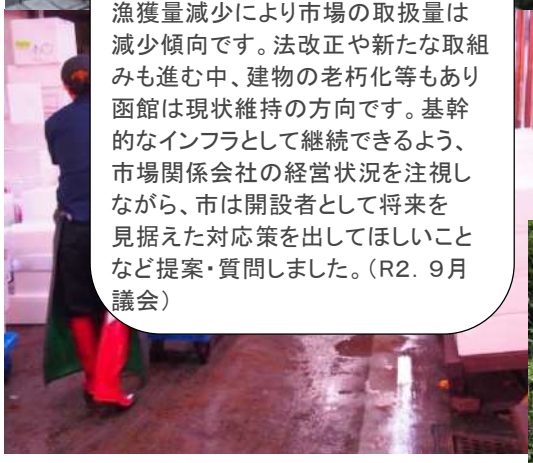
コロナ禍は、地方へ人流を引き戻すよい機会と感じ、コロナ終息時にどう経済を回復させるか・移住者をどう増やすか市の考え方やその後のワーケーションの取組みについて質問しました。（R3．３月議会）

介護人材不足。働きがいをもって仕事を続けられるように！

函館市の介護職員の離職率は約 20%と国の調査結果よりも高いです。国レベルまで下がれば 100 人規模の離職防止の効果が得られます。福祉人材の養成高校ではほとんど地元で就職し 3 年以内の離職率が約 11%（全職種の高卒離職率は 40%）と定着率が高いので、他業界からの転職よりも、現在福祉・介護従事者の離職理由を改善して働き続けてもらう取組みが大事では、といった提案と質問をしました。（R2．３月議会）

卸売市場の生き残りのために！

函館市青果物地方卸売市場と水産物地方卸売市場。安心安全な生鮮食品を安定的に供給するのに不可欠なインフラです。一方、人口減少、漁獲量減少により市場の取扱量は減少傾向です。法改正や新たな取組みも進む中、建物の老朽化等もあり函館は現状維持の方向です。基幹的なインフラとして継続できるよう、市場関係会社の経営状況を注視しながら、市は開設者として将来を見据えた対応策を出してほしいことなど提案・質問しました。（R2．９月議会）

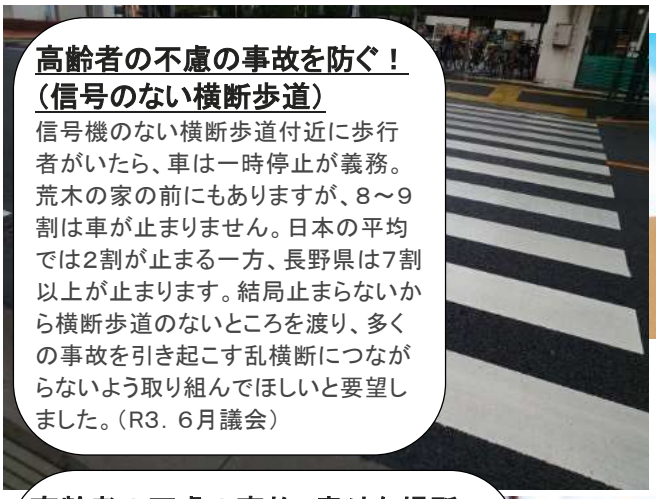


コロナ禍の飲食店支援！

飲食店オーナー向けに行ったアンケートの結果を元に質問しました。感染防止対策の徹底により、経済は自助努力ではどうしようもなく、国や自治体の支援に依るところが大きかったのですが、市の飲食店をとりまく実態の把握方法、事業者支援の考え方等、質問すると同時に、「飲食店は開けて頑張って、でもお客さんは食べに行かないで」と言われているようだ（矛盾）、といった生の声を伝えました。（R3．３月議会）

自伐型林業が進んだ街に！

函館市の森林所有者は3600人以上。森林経営管理制度が始まり、放置された森林も管理が必要に。自分で管理できない場合、民間業者や行政が代わりに管理することになりますが、もう一つ選択肢（自伐型林業）が。これまでの「皆伐」（その区画の樹木を全て伐採する）ではなく、将来残したい木を決めて、支障となる木を間引く「間伐」を繰り返す自伐型林業。山のダメージが少なく、災害防止にもなります。自身でも管理できる手法があることを所有者に周知し、災害に強い森林づくりを提案しました。（R3．９月議会）



高齢者の不慮の事故を防ぐ！（信号のない横断歩道）

信号機のない横断歩道付近に歩行者がいたら、車は一時停止が義務。荒木の家の前にもありますが、8～9割は車が止まりません。日本の平均では2割が止まる一方、長野県は7割以上が止まります。結局止まらないから横断歩道のないところを渡り、多くの事故を引き起こす乱横断につながらないよう取り組んでほしいと要望しました。（R3．6月議会）

地域の安心・安全は、セーフコミュニティ！

地域の安心・安全には、①事故の減少や検挙率向上など安全面での対策、②コミュニティの力で不安感が払拭されること（体感治安）、の両方が必要です。事故やケガは偶然に起こるのではなく予防できる、という考えのセーフコミュニティは、高齢化が進み、町会役員等のなり手を見つけるのが困難な今、今後の地域に役立つ仕組みとして提案しました。（R2．12月議会）

高齢者の不慮の事故、意外な場所、トイレの対策を！

函館市の不慮の事故死は年間約100名。要注意はトイレでの死亡。転倒、誤嚥、溺死は不慮の事故の内訳ですが、トイレは別の死因（心臓、脳内出血等）に数えられており実態が見えません。救急搬送件数は、浴室からの搬送は年間70件程度、トイレからは100件を超えており、トイレでの事故について、分析、啓発することで予防につながると提案しました。（R3．6月議会）

AI・ICT を用いたまちづくり！

はこだて未来 AI ビジョンができて丸3年。成果が出ている会津若松市の取組みを引き合いに、函館でも特定分野にしぼって戦略を立てるべきではと提案しました。（R3．3月議会）

不登校児童生徒、自宅学習！

国の GIGA スクール構想によって、函館市の小中学生には、タブレット端末が一人1台整備されました。文科省の通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」では、学校が提供した ICT を活用した学習を自宅でしたら出席扱い、としています。市内全域でも進めてほしいことを要望しました。（R3．6月議会）

コロナ禍で休校中のこどもの安心した居場所！

学校休校中、ひとり親家庭、共働き家庭のための教室開放事業が小学校7校で実施されました。利用は8時半～15時半、登下校は保護者の送迎が必要で働く親には難しい条件でした。高齢の親(実家)に預けられず、留守番の子ども（低学年）も多くいました。留守番中に TV、インターネット、動画ばかり見て心配な保護者の声もあり、通常とは違う非常事態だからこそ、今後は子ども達にしわ寄せがいかない対応を要望しました。（R2．6月議会）

障がいのある子どもの居場所を確保する！

障がいのある子どもが放課後や休日に利用できるのが放課後等デイサービス（放デイ）。不登校や突発的に学校を休んだ時（病気やケガ等は別）の利用を国・道は認めていますが、函館市は学校を休んだ時は利用できない、という認識でした。放デイの基本的役割は「こどもの最善の利益の保障と健全な育成を図る」。障がい児の特性や保護者支援の観点から、学校を休んだ時も放デイを利用できることを議場で確認し、その周知を要望しました。（R2．12月議会）

ひとり親のお母さん、お父さんが、子どもの自立後も続けられる仕事を見つける！

離婚後子どもが小さいと仕事と子育ての両立は大変ですが、世帯主としてお金を稼ぐ力を養い、安定した仕事に就くことは重要です。子どもが育ったあと、そこから仕事のキャリアを積むのは難しく、自立した生活のためには、ひとり親になった時点で安定した仕事やキャリアアップに向けての生活設計を立てること、市はそのための支援が必要と提案しました。（R2．9月議会）

性被害の被害者、加害者、傍観者にならない！（生命の安全教育）

国は、令和2～4年度まで性犯罪・性暴力対策の「集中強化期間」としています。表に出にくいことですが、日本では女性の7%、男性の1%が性被害経験者で、小学校入学前に被害を受けたケースもあります。子どもたちがあらゆる暴力から自分の身を守る力（CAP）をつけること、また性被害に遭った児童生徒への適切な関わり方、対応方法（聴き取りすぎないこと）を全教員で共有するよう要望しました。（R3．9月議会）

社会の課題解決につながる仕組みを作ることができました！

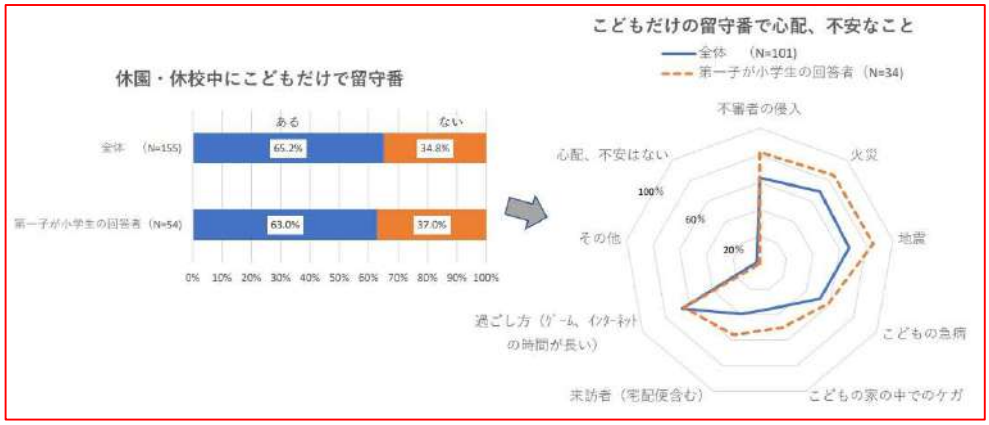
新型コロナウイルスの影響を受けた、ひとり親家庭への食料支援

新型コロナが北海道で感染拡大し、お子さんのいる家庭では、学校の休校、分散登校、卒業式縮小、休校のまま春休み突入・・と、不安を抱えながらの生活を送っていました。特に、仕事で日中に大人がいない家庭では、低学年でも朝からずっと家で留守番をしなければならない状況になりました。そんなある時、子育て中のひとり親が新型コロナウイルスでどのような影響を受け、何に困り、不安を感じているかを聴取するため**５名の方へヒアリング**しました。そこで出た話がその家庭独自のことなのか、他のひとり親にも共通していることかを量的に確認するため、**オンラインアンケート**を実施しました。そして６月議会の**一般質問**でアンケート結果を取り上げました。“保護者自身が感染して入院した場合、子どもはどうなるか”,“低年齢層の子どもの留守番をどう考えるか”など質問するだけでなく、我々が民間の力で何かできるのではないかと考えて始めたのが、ひとり親世帯向けの**食料支援**です。

ひとり親世帯向けアンケート概要
手法：インターネット調査
地域：函館市、北斗市、七飯町、その他
回答数：N=１８０（うち函館市民 N=１５５）
調査期間：２０２０年５月２０日(水)～３１日(日)

右のアンケート結果にあるとおり、**45.2%の方**が**「食費を切り詰めている」**と回答されました。食料支援の実施にあたり、より多くのひとり親の方へ食料支援の情報を知ってもらうため、市の協力を得て児童扶養手当を受給しているひとり親家庭（約 3,600 世帯）向けに市が送るお便りに食料支援のチラシを同封してもらいました。それにより、民間では難しい約３,６００世帯のひとり親世帯へ活動をお知らせできました。その結果２０２０年８月からお米を中心とした食料支援が始まり毎月継続、のべ１,０００世帯超へ支援しました。

このように、市民の方々が抱える課題を量的に把握し、市に伝えると同時に官民協働で支援の仕組みができました。これが**荒木が目指した一つの形**です。



函館にＵターンしてから色々な市民活動に関わる機会がありましたが、社会的な課題解決につながる良い活動をされている団体が多くあります。そういう課題や活動があることを、これまであまり市民活動に縁のなかった経済界の方々にも知ってほしい、そして活動をより広げたい、と思ってきました。今回の食料支援は、函館東ライオンズクラブの支部である函館東こどもサポートクラブが支援活動を実施しています。荒木は、函館東ライオンズクラブと支部の連絡員として、また市との連携やフードバンク道南協議会、はこだてこども食堂、行政書士会といった団体や農家さん、酪農家さん、個人の方々からの協力・支援を受ける場面で**「つなぐ」役割**を果たしています。実際の支援では、右の写真のように１００名以上の大規模支援の時は主に集合会場にてドライブスルー方式でお渡しし、毎月の支援（２０軒程度）では直接ご自宅へお届けしています。

支援は大学生にも行いました。新型コロナの影響で飲食店等のアルバイトがなくなった、アルバイトの日数が減ったことで生活費が激減した**「1日1食」という大学生の投稿**をきっかけに、北海道教育大学函館分校、函館大学で実施しました。

また、行政からも、**緊急食料支援が必要なひとり親世帯への支援**を依頼され、食料をお渡しすることも数を重ねています。函館市のひとり親世帯向けに作成していた支援活動のチラシは、今は七飯町のひとり親世帯にも配布されています。

レストランオーナー（ポッケディッシュ、北斗市）からは、週末にひとり親世帯の親子１組（子どもは何名でも）を招待して**夕食をプレゼントする取組み**を提供いただいています。我々は対象のひとり親世帯の募集・調整をしています。ナイフフォークを手に普段とは違う夕食を楽しむ機会が喜ばれています。

函館市の財政状況が厳しさを増す一方、市民ニーズは多様化・高度化しています。市民が納得のいく財政支出、財政の効率化を図る上で、今後ますます官民協働は重要になると感じます。行政がすべきこと、民間ができること、そして両者が協力して取り組むことを、今後も考えながら継続していきたいと思います。

函館新聞　2021年

こどもサポートクラブとフードバンク道南協

ひとり親に食支援の輪

米など詰め合わせ配布

ひとり親を食料品で支援する函館東こどもサポートクラブのメンバー

新型コロナウイルス禍で食費を切り詰めながら生活するひとり親世帯を支援しようと、有志の市民グループ「函館東こどもサポートクラブ」（前田貴子代表）が昨年発足し、フードバンク道南協議会（広部節子代表）と連携して毎月１回程度、食料品を無償で提供している。（鈴木　開）

行政書士会函館支部

ふっくりんこ寄贈

函短付設調理製菓専門学校

寄付の卵でマドレーヌ

広部代表に米を手渡す嶋田支部長（左）

函館「食」で広がる支援の輪

コメ、カレー、飲料など詰め合わせ

ひとり親世帯にお届け　フードバンク道南協

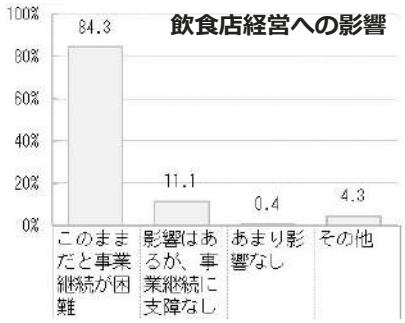
マドレーヌは寄贈の卵で手作り

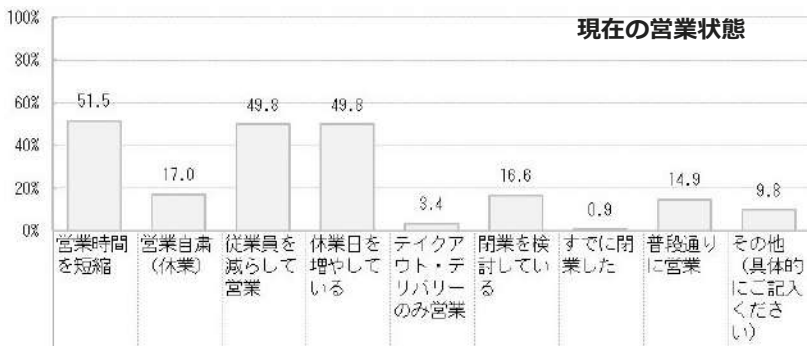
函館短大付設

調理製菓専門学校

新型コロナウイルスの影響を受けた、飲食店オーナーの声を聴取。

ひとり親世帯の他、飲食店オーナーへもアンケートを行い（２０２１年２月）、多くの方のご協力により２３６名の飲食店オーナーさんから回答を得ました。首都圏のような休業・時間短縮要請等がないまま、開店休業状態が続く等、厳しい現状が如実に示された調査結果となりました。いただいた回答は集計・分析して、２０２１年３月議会で取り上げました。以下はアンケート結果の一例です。





活動のあれこれ

新型コロナでなかなか活動できませんでしたが、荒木あけみの活動一コマ～

←函館マラソン前清掃
この２年間はコロナの影響で実行委員４名だけでゴミ拾い。４人でも結構な量。
(2020/6/14，2021/6/13)

重要文化財である公会堂。リニューアルオープン前に内覧会。
(2021/4/22)

↓函館市のクリーングリーン作戦。
(2021/10/17)

ひとり親世帯の食料支援。対象の方への連絡係兼当日スタッフ。(2021/8/10)

自伐型林業啓発の一環。道南森づくりの会主催ワークショップに参加。チェーンソー体験。
(2021/7/11)

西警察署へ嘆願書提出（P1 参照ください）
13 町会の署名を感慨深く眺める。
(2020/3/19)

PCR センターの最終リハーサル。予約の患者さんが次々検査を受ける設定。間近で見学できて感謝。（2020/5/22）

荒木あけみと語る会

２年ぶりの開催です！

日時：２０２２年（令和４年）１月３０日（日）

時間：１０時～１１時３０分

場所：函館アリーナ 会議室（函館市湯川町 1-32-2）

荒木あけみから、市政や議員活動の報告と、参加者の皆さんからご意見や質問など自由に語る場です。途中入場、退席は自由です。どうぞご参加ください！

荒木あけみ公式ホームページ
https://www.arakiakemi.jp/

Facebook
未来へつなぐ荒木あけみネット
https://www.facebook.com/ARAKIAKEMInet

Instagram
araki.akemi
https://www.instagram.com/araki.akemi/